

≡ プレスリリース ≡

2007 年8月2日

株式会社スクウェイブ
社長室 広報担当

株式会社スクウェイブ

IT コストベンチマーク「SLR[®](サービス・レベル・レイティング)」に 地方自治体で初、藤沢市が参加決定

ITマネジメントコンサル会社の株式会社スクウェイブ(所在地:東京都世田谷区用賀 4-10-3、代表取締役:黒須豊)は、藤沢市のITシステムの業務レベルとコスト妥当性の診断を、独自のベンチマークモデル「SLR[®](サービス・レベル・レイティング)」に基づいて実施することで、藤沢市と合意しました。

スクウェイブでは、2003 年より民間の大手企業を対象に、ITコストを可視化し妥当性を診断するSLR[®](サービス・レベル・レイティング)を行っています。これまで延べ50社以上の企業に実施してきましたが、今後はサービスの対象を地方自治体にも広げていく方針で、藤沢市は地方自治体で初の参加となります。

今回は、ITガバナンスの構築に向けて民間企業のIT資産管理ノウハウの取得に意欲的な藤沢市と、地方自治体のIT適正化支援事業を充実させていく考えのスクウェイブによる共同研究の形態で調査・分析を行います。

SLR[®]の対象領域は、企画・戦略など数値化できないものを除き、開発、保守、運用(ホスト系、オープン系)、ネットワーク運用、パソコン/LANの運用、ヘルプデスク運用の7分野。具体的な評価の指標と比較対象となる企業名を公開している点が最大の特徴で、従来のベンチマークと異なり、企業(団体)が主体的にIT投資の効率性を判断することが可能です。また独自の普遍的なモデルに基づいて行うため、業種やシステム規模にとらわれることなく、地方自治体と民間企業を比較することも可能にしています。

藤沢市のIT部門におけるマネジメント意識の高さと積極性は自治体業界でも話題を集めていますが、地方自治体が団体名を公開したベンチマーク調査に参加するのは異例です。調査結果は9月末発表の予定です。

現在、地方自治体においても予算規模の大きさや不透明なコスト構造などの理由からITの適正化が求められ、また“ITゼネコン”と呼ばれる大手コンピューターメーカーとの関係にも注目が集まっており、透明性を求める声が高まっています。このような状況において、SLR[®]のサービスは先進的なITマネジメントを推進する民間優良企業との比較を元にしたITコストの適正化、および電子自治体化が進む上での方向性を見出すための支援になるものと考えます。

スクウェイブでは、今後も地方自治体に向けてSLR[®]のサービスをさらに広げ、中立的な立場での調査・コンサルティングを行うことで、地方自治体に最適なITシステムの構築・運用に貢献していきます。

<本件についての連絡先>

株式会社スクウェイブ 社長室 広報担当 : 荒井 英恵

〒158-0097 東京都世田谷区用賀 4-10-3 世田谷ビジネススクエア ヒルズ II

TEL 03-5797-5671/FAX 03-5797-5276/Email: hanae.arai@k2wave.com

URL <http://www.k2wave.com>